

令和6年度 学校経営計画・学校評価		■4月4日提出	■10月3日提出	■3月14日提出
高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備	
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) 自ら学び、考え、判断し、行動し、他者と協働して、地域に貢献したいと考えている生徒	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)		
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ コミュニケーション力…言語を適切に用いて、気持ちや考えを他者に伝えたり、他者とのコミュニケーションを円滑に図ったりする力 ○ 地域課題解決力…地域理解力・情報収集力・創造力・比較分析力・表現力・主体的行動力・協働力	○ 地域課題解決力の育成を目指した3年間の「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト」(総合的な探究の時間) ○ 生徒の基礎学力の定着をねらいとした1年次の全員共通学習 ○ 2年次から生徒の適性・興味・進路希望に応じて2コース(教養系、文・理系)の選択履修 ○ 国立公立大学等を目指す生徒対象の遠隔授業		

学校番号	32	佐川	高等学校	課程	全
学校関係者評価					
【学力の向上】	評価	【 B 】			
学校評価アンケートでは、地域学校関係者は「学校の魅力化」を望む声が最も多く、次いで「進路実現」という結果であり、「魅力化」は「進路実現」と繋がっており、高知市内の高校に行かなくても進学や就職がしっかりでき、同時にそれぞれの生徒が輝ける学校にしてみたいとの願いが伺える。このことから、来年度も授業改善の取組をより一層進めて行ってもらいたい。					
【社会性の育成】	評価	【 B 】			
アンケートによると、「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト～」は充実しており、本校の教育活動が地域の活性化につながっていると高く評価されている。生徒の社会性の育成には、様々な体験活動や自信を持たせる取り組みが必要である。その点では2年連続で、地域マナ部の生徒が地元の役場に就職したことは成果であり地域に密着した人材を育ててもらうためにも地域に根差した、地域を意識した取組を今後も続けてもらいたい。					
【チーム学校】	評価	【 B 】			
保護者は「本校は生徒や保護者・地域住民の意見を聞き、その声を反映していると思いますか」の問いに対して肯定的回答が80%となっている。概ね評価してもらっているが、20%は評価が低い。教職員が、意欲を持って教育活動に取組むことが、学校の活性化、魅力化につながり、目標とする学校像にチームとして近づけるのではないかと考えている。来年度からは地域コンソーシアムの取組も始まるので、「高校魅力化」について学校としての方向性を明らかにしていかなければならない。					

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を養む)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:1回め+5p以上 ・2年:1回め+5p以上 ○授業外学習時間の増加 ・「ほとんど学習しない」昨年度1p－ ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14「将来の可能性を広げるために勉強」肯定的回答昨年度より3p＋ ○進路達成 ・国立大・公務員に合格者を出す。	①基礎的・基本的な知識・技能の向上: ・「One Week Trial」の徹底活用(国・数・英) ・「すらら」の活用 ②主体的に学習に取り組む態度の育成(家庭学習習慣の定着に向けた課題の工夫) ・学び方を学ばせる指導 ・課題内容の工夫(予習型ではなく復習型で) ・負荷(量・頻度)の調整 ・評価の工夫(減点方式ではなく加点方式で) ③基礎力診断テストの活用:学校支援チームとの協議及び情報交換	○C層以上の生徒の増加 ・1年:1回め昨年度より10p－ ・2年:1回め昨年度より4p＋ ○授業外学習時間の増加 ・第1回「ほとんど学習しない」昨年度より6p＋ ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14昨年度より3.1p＋ ○進路達成 ・佐川町役場合格者1名	①基礎的・基本的な知識・技能の向上: ・「すらら」の活用の徹底 ②主体的に学習に取り組む態度の育成(家庭学習習慣の定着に向けた課題の工夫) ・1年生が家庭学習に「すらら」を使う頻度が高いので2年生にも広げていく ③基礎力診断テストの活用:学校支援チームとの協議及び情報交換	○C層以上の生徒の増加 ・1年:2回め4p＋ ・2年:2回め6p＋ ○授業外学習時間の増加 第2回「ほとんど学習しない」昨年度より0.5p＋ ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14第2回昨年度より2.7p＋ ○進路達成 公務員3名(佐川町役場1名・自衛隊2名)、国立大学2名など	①「すらら」などICT教材を使つての基礎学力を向上することが必要である。そのためにICT支援員の個人指導、研修活動が大事である。また今年導入して好評であった授業公開月間を企画して、教員相互の「学びあい」を進めていく。 ②授業外学習時間の増加に対する取組を進める。 ③授業デザイン(プロジェクトチーム)活動 ・生徒が主体となる授業・個別最適な学び・協働的な学び ・授業と授業外学習のシームレス化を図る
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等の育成 ・県ア問10「授業ではまとめたり発表の機会がある」の肯定的回答昨年度より5p＋ ○キャリアデザイン力の育成 ・県ア問21「地域貢献活動やボランティア活動などに実際に参加している」肯定的回答昨年度より10p＋	①「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト」を通じた自己肯定感、地域貢献意識などの醸成 ②学校行事・部活動等を通じた「主体性・協働・地域貢献」の精神の涵養:授業・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターン・進路講演会等への主体的な参加 ③コミュニケーション力・自己管理能力の向上: キャリアパスポート・「今未来手帳」及びタブレットを効果的に活用したコミュニケーション力、自己管理能力の向上(記録と振り返り)	○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等の育成 ・県ア問19「授業ではまとめたり発表の機会がある」の肯定的回答昨年度より1.4p＋ ○キャリアデザイン力の育成 ・県ア問21「地域貢献活動やボランティア活動などに実際に参加している」肯定的回答昨年度より3p＋	①「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト」を通じた自己肯定感、地域貢献意識などの醸成 ②学校行事・部活動等を通じた「主体性・協働・地域貢献」の精神の涵養:授業・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターン・進路講演会等への主体的な参加 ③コミュニケーション力・自己管理能力の向上: キャリアパスポート・「今未来手帳」及びタブレットを効果的に活用したコミュニケーション力、自己管理能力の向上(記録と振り返り)	○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等の育成が図れた。 ・県ア問10「授業ではまとめたり発表の機会がある」の肯定的回答昨年度より4p－ ○キャリアデザイン力の育成 ・県ア問21「地域貢献活動やボランティア活動などに実際に参加している」肯定的回答昨年度より17p＋	①総合的な探究の時間と部活動、生徒会活動のそれぞれの活動を整理し役割を明らかにする。 ②生徒が「自分の言葉で」語ることが出来るように導いていく。 ③コミュニケーション力を高めるため外部の方とのディスカッションの時間をとり、手帳やタブレットに記録する能力を高める。そのために手帳は継続して購入をする。(来年度から県からの手帳購入の補助はなし)
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会・2年中間発表会で成果を上げる。各学年発表会で10題の発表をする。 ○学習を進路決定に生かす ・県ア問19「地域や社会のために何をすべきか考える」肯定的回答昨年度より5p＋ ・進路決定率100%(個別・集団面接を突破する)	①「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト」を進めるに当たつての協働活動推進員との検討会(事前事後) ②発表会に向けてのプレゼンの能力の育成 ③成果を進路での面接、作文等で生かす進路指導	○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会で10題の発表をした。 ○学習を進路決定に生かした。 ・県ア問19「地域や社会のために何をすべきか考える」肯定的回答昨年度より10p＋ ・佐川町役場へ1名合格	①「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト」を進めるに当たつての協働活動推進員との検討会(事前事後) ②2年生中間発表会に向けてのプレゼンの能力の育成 ③成果を進路での面接、集団討論、作文等で生かす進路指導を補習で行う(リモートを効果的に活用する)	○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会・2年中間発表会で成果を上げた。各学年発表会で10題の発表をした。 ○学習を進路決定に生かした。 ・県ア問19「地域や社会のために何をすべきか考える」肯定的回答昨年度より1p＋ ・進路決定率100%(個別・集団面接を突破する)	①地域学校協働活動推進員との事前事後の打ち合わせを今まで以上にを行う。 ②今年は1年から成果発表会を実施して発表する能力を高めた。今後も継続したい。 ③授業で討論を実施しているが、それをより一層進めていく。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けれる力の育成	○授業改善のための研究授業の実施 ・言語活動や情報活用能力を意識的に設定しているかなどを研究する公開授業を学期に1回行う。 ○総合的な学習の時間の成果を各教科に生かす ・県ア問10「授業ではまとめたり発表をしたりする場面がある」肯定的回答昨年度より5p＋	①公開授業により「生徒が活動する授業」(生徒の発表機会の確保、タブレットの活用など)の実践により、学習事項の理解・定着 ②教科を超えた校内研修により言語能力・情報活用能力を養う効果的指導法、ICTの効果的活用法、指導と評価の一体化などを検討	○授業改善のための研究授業の実施 ・公開授業を学期に1回が半数の教員しかできなかった ○総合的な学習の時間の成果を各教科に生かした。 ・県ア問10「授業ではまとめたり発表をしたりする場面がある」肯定的回答昨年度より12p＋	①教員間の授業公開を学期に2回以上実施する(生徒支援の面からも有効) ②教科を超えた校内研修を行い、「すらら」の活用、支援の必要な生徒への声掛け等、見学後の教員間のコミュニケーションを大切にする	○授業改善のための研究授業の実施 ・2学期に授業公開月間を設定した。フィードバックシートを提出した教員100% ・教職大学院実習教員の研修や「実習生だより」等で教職員の生徒支援の意識が高まった。 ○総合的な学習の時間の成果を各教科に生かした。 ・県ア問10「授業ではまとめたり発表をしたりする場面がある」肯定的回答昨年度より5.6p＋	①教科横断型の授業の研修を受け、学校として授業研究をしていく。 ②授業改善月間を設け学校全体として授業改善を進めていく。特にICTの有効な活用や学習意欲を高める評価の研究を行う。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地域の生徒の進路保障 ○地域に貢献する人材の育成	○入学者数の増加 ・地元7中学校からの進学率20%以上 ○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会・2年中間発表会の成功・各学年10題以上の発表 ○生徒会活動・部活動の活性化 ・中高生会議、地域マネジメント部のカフェ、ガイド等の活動の実施	①連携・交流：地域の大人、近隣小・中学校 ②広報：佐高だより、佐高かわら版、公式HP、新聞、折込等の活用 ③地域貢献活動：部活動、さくら咲くプロジェクト ④PTAや地域との連携：PTA総会、学校運営協議会、地域に根差した佐川高校を後援する会、地域学校協働活動推進員等の活用	B	○入学者数の増加 ・高校説明会で生徒による説明をした ○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会10題の発表 ○生徒会活動・部活動の活性化 ・中高生会議、地域マネジメント部のカフェ、ガイド等の活動の実施を行った	①連携・交流：地域の大人、近隣小・中学校 ②広報：佐高だより、佐高かわら版、公式HP、新聞、折込等の活用 ③地域貢献活動：部活動、さくら咲くプロジェクト ④PTAや地域との連携：PTA総会、学校運営協議会、地域に根差した佐川高校を後援する会、地域学校協働活動推進員等の活用	○入学者数の増加 ・高校説明会で生徒による説明をした ○「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」の推進 ・3年総合発表会10題の発表 ○生徒会活動・部活動の活性化 ・中高生会議、地域マネジメント部のカフェ、ガイド等の活動の実施を行った	①連携・交流：地域の大人、近隣小・中学校・保育園との交流 ②広報：佐高だより、佐高かわら版、公式HP、新聞、折込等の活用 ③地域貢献活動：部活動、さくら咲くプロジェクトの広報活動の強化 ④PTAや地域との連携：PTA総会、学校運営協議会、地域に根差した佐川高校を後援する会、地域学校協働活動推進員等の活用 ⑤地域・行政との連携：地域コンソーシアムによる生徒数確保の取組
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○校内研修の実施 ・校内研修の実施回数3回以上(R5 2回) ○委員会の発足(昨年度までは不祥事が起これば職員朝礼・職員会を通じて周知徹底をしていた) ・不祥事防止委員会の実施回数6回以上	①スクールロイヤーなどの校内研修の実施 ②不祥事防止委員会の活用 ③管理職面談やSCのカウンセリングによって教職員のこころの状態の把握	B	○校内研修の実施 ・校内研修の実施回数2回 ○委員会の発足 ・不祥事防止委員会の実施回数3回	①スクールロイヤー全校集会の実施 ②不祥事防止委員会の活用 ③管理職面談やSCのカウンセリングによって教職員のこころの状態の把握	○校内研修の実施 ・校内研修の実施回数5回 ○委員会の発足 ・不祥事防止委員会の実施回数5回	①スクールロイヤーなどの教員研修の実施 ②不祥事防止委員会の活用 ③管理職面談やSCのカウンセリングによって教職員のこころの状態の把握
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務の分担 ○年休等の取得の推進	○月45時間以上勤務者延べ5名以下(R5 5名) ・月80時間 0名 ○校内研修の実施 ・校内研修の実施回数3回以上	①全定合同校内研修会の実施 ②会議の精選及び時間設定 ③部活動の効率的運営 ④グループウェアの活用による情報共有 ⑤ICTを活用したペーパーレス化(各会議資料等)	B	○月45時間以上勤務者延べ1名 ・月80時間 0名 ○校内研修の実施 ・校内研修は開催できなかった。	①全定合同校内研修会の実施 ②会議の精選及び時間設定 ③部活動の効率的運営 ④グループウェアの活用による情報共有 ⑤ICTを活用したペーパーレス化(各会議資料等)	○月45時間以上勤務者延べ1名 ・月80時間 0名 ○校内研修の実施 ・校内研修1回	①全定合同校内研修会の実施 ②会議の精選及び時間設定 ③部活動の効率的運営 ④グループウェアの活用による情報共有 ⑤ICTを活用したペーパーレス化(各会議資料等)